

製品名: p70 S6 キナーゼ α (リン酸化 Thr421) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05192

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	70kDa

抗原情報

遺伝子名	RPS6KB1 RPS6KB1; STK14A; Ribosomal protein S6 kinase beta-1; S6K-beta-1; S6K1; 70 kDa ribosomal
別名	protein S6 kinase 1; P70S6K1; p70-S6K 1; Ribosomal protein S6 kinase I; Serine/threonine-protein kinase 14A; p70 ribosomal S6 kinase alpha; p70 S6 kinas
遺伝子 ID	6198.0
SwissProt ID	P23443
免疫原	ヒト p70 S6 キナーゼ α のリン酸化部位 (リン酸化 Thr421) 周辺の合成リン酸化ペプチド

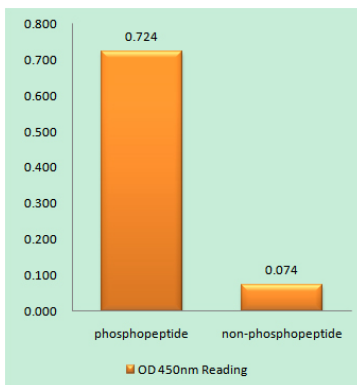
背景

リボソームタンパク質 S6 キナーゼ B1 (RPS6KB1) ホモサピエンス この遺伝子は、セリン / スレオニンキナーゼのリボソーム S6 キナーゼファミリーのメンバーをコードします。コードされているタンパク質は、mTOR (哺乳類ラパマイシン標的タンパク質) シグナル伝達にตอบสนองし、タンパク質合成、細胞成長、および細胞増殖を促進します。この遺伝子の活性はヒト癌との関連が報告されています。選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが観察されています。選択的翻訳開始部位の使用により、N 末端が長いまたは短いアイソフォームが生成され、細胞内局在が異なる場合があります。この遺伝子には、染色体 17 上に 2 つの擬似遺伝子が存在する。[RefSeq 提供、2013 年 1 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素調節: セリン/スレオニンリン酸化およびタンパク質キナーゼ C によって活性化され、2A 型ホスファターゼによって不活性化される。機能: インスリンまたはいくつかのクラスのマイトジェンに反応して、リボソームタンパク質 S6 を特異的にリン酸化します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 S6 キナーゼサブファミリー。、類似性:1 つの AGC キナーゼ C 末端ドメインを含む。、類似性:1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、サブユニット:PPP1R9A/ニューラビン-1 と相互作用する。、組織特異性:広く発現している。、

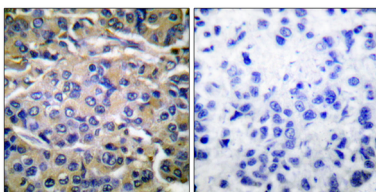
研究分野

血管新生を制御する; インスリン受容体; ErbB/HER; mTOR; B 細胞受容体; Akt_PKB; Akt_PKB; AMPK

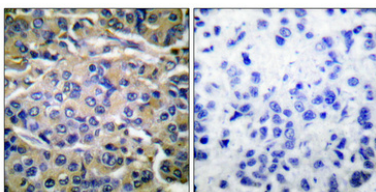
画像データ



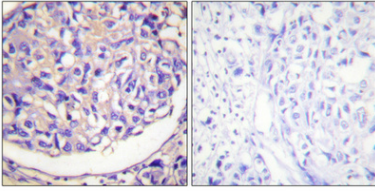
p70 S6 キナーゼ (リン酸化 Thr421) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



p70 S6 キナーゼ (リン酸化 Thr421) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。右の写真は p70 S6 キナーゼ (リン酸化 Thr421) ペプチドでブロッキングした画像です。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。